

燕市都市計画マスタープラン 策定委員会 (第2回 会議資料)

場所 燕市役所 つばめホール

日時 令和4年1月11日(火)
10時00分～

燕市 都市計画課

目 次

1. 前回のふりかえり

- (1) 第1回庁内検討委員会 3
- (2) 第1回策定委員会 4

2. まちづくりの理念将来像

- (1) まちづくりの理念と将来像 6
- (2) まちづくりの目標 7
- (3) 将来都市構造 8

3. まちづくりの目標と主要課題

- 将来像実現のための主要課題 11

1. 前回のふりかえり

(1) 第1回庁内検討委員会

	主な意見	対応
1	総合計画では国勢調査の新しい確定値に基づいた人口推計を使用する予定である。今回の資料に掲載されているメッシュ人口推計等の修正は可能か。 また、アンケートを毎年実施しているので市民意向の更新は可能か。	可能である。適宜データの修正を行っていく。
2	地域未来投資促進法の基本計画も関連計画として扱われるのか。	土地利用などについて関連性が高いため、今後打ち合わせを密にしたうえで具体的な計画に落とし込んでいく。
3	「健康・スポーツ都市」の文章について、「健康づくり」も入れてほしい。	今後、分野別の検討を進めるうえで、健康づくりに関する記載を加える。
4	防災に関する記載について、浸水深が深い井土巻、東町等についても触れたほうが良いと思う。また、これからのまちづくりの方向性の部分を具体的にすべき。	今後の分野別方針の検討を進めるうえで、細かい分野に触れていく。また、立地適正化計画の防災指針の策定と併せて、防災課の意見を伺いながら進める。
5	土地利用の項目で「用途地域外も含む大規模な産業用地の確保」と「保全と開発の適切なバランス」に関する記述があるが、内容は作業部会で調整を図ったのか。	作業部会の検討を基にした記述である。 同時に、商工振興課と農政課、都市計画課の3課による話し合いも行っており、今後も話し合いを進める。
6	総合計画の策定では、アフターコロナにおける計画変更の可能性を記載する予定である。都市マスではどのように対応するか。	都市マスは20年後を想定した計画であり、20年後の将来像から逸れない書きぶりにしたい。見直し時期は計画期間内の状況を踏まえて検討する。

1. 前回のふりかえり

(2) 第1回策定委員会

	主な意見	対応
1	用途地域内の低未利用地の整理は産業用地拡大の観点からも重要と考えている。	今後も、情報の整理を進める。
2	今後の燕市の工業・流通の中心となるのは、市中央部の工業団地周辺となるのか。	現在、立地が集積しているのは市中央部工業団地周辺である。集積のメリット活かせるような土地利用を検討していく。
3	現在の燕市の都市計画は方向性が見えてこない。方向性や進捗状況を広く市民に知らせることが必要。	これから策定する都市マスを活用してまちづくりの方向性を広くPRしていきたい。
4	まちづくりの方向性をどうやって実現するか、優先度等や実行性のスケジュールを示せないか。	詳しいスケジュールについてはマスタープランでは難しいが、優先度については検討が必要と考えている。
5	産業観光を燕市の資源としてまちづくりを進めていただきたい。燕市内に産業観光イベントの集客ができる場所があると良い。	策定委員会での内容を庁内の各担当とも共有して、検討していきたいと考えている。
6	公共交通を利用する対象者を明確にすると良い。また、道路の利用環境は、車と歩行者のどちらを対象にしているのか明確にすると良い。	いただいた意見について、内部で改めて検討させていただき、策定委員会でも意見をいただければと考えている。
7	スマートシュリンクという表現はふさわしくない。新しい開発を全て抑制するのではなく、適切な管理のもと、既成市街地で充足できないものは整備等、新しい方向性を示していただきたい。	いただいた意見について、内部で改めて検討させていただき、策定委員会でも意見をいただければと考えている。

2. まちづくりの理念と将来像

■都市計画マスタープランの構成案

1. はじめに

- 1-1. 都市計画マスタープランとは
- 1-2. 都市計画マスタープランの役割
- 1-3. 計画の位置付け
- 1-4. 計画改定の趣旨
- 1-5. 計画期間の設定
- 1-6. 都市計画マスタープランの構成

2. 燕市をとりまく状況

- 2-1. 燕市をとりまく状況の変化
- 2-2. 燕市の現状

【全体構想】

3. まちづくりの理念と目指すべき将来像

- 3-1. まちづくりの理念と将来像
- 3-2. まちづくりの目標
- 3-3. 将来都市構造
- 3-4. 将来像実現のための主要課題

↑
今回の検討項目

4. 分野別の方針

- 4-1. 市街地の土地利用（用途地域内）
- 4-2. 市街地周辺の土地利用（用途地域以外）
- 4-3. 交通体系
- 4-4. 環境・景観
- 4-5. 都市施設
- 4-6. 都市防災・防犯
- 4-7. 観光・文化・スポーツ・レクリエーション

5. 地区別構想

- 5-1. 地域別構想の概要
- 5-2. 燕地区
- 5-3. 吉田地区
- 5-4. 分水地区

6. 実現化方策

- 6-1. 実現化方策の概要

2. まちづくりの理念と将来像

(1) まちづくりの理念と将来像

- 燕市の最上位計画である総合計画の理念を踏まえ、都市計画の視点で理念と将来像を定めます。
- 理念の中心にある『人』と将来像に込められた『自然』『産業』は将来のまちづくりにおいても重要な要素であることから理念を踏襲します。

【現計画の理念と将来像】

『人と自然と産業が調和した夢のある都市(まち)』
～コンパクト都市の実現～

総合計画の理念の中心にある『人』と将来像に込められた『自然』『産業』を踏襲するとともに、都市計画マスタープラン策定にあたり開催した策定委員会からの意見により『夢』をキーワードとして設定。

※コンパクト都市の実現:燕市で考えるコンパクト都市「地域資源が有機的に組み立てられ、相互に有効に活用されていく都市」

理念・将来像(案)

案1 『人と自然と産業が調和した夢のある都市(まち)』 ～多極ネットワーク型コンパクトシティ※の実現～

案2 『人と自然と産業が共生する夢のある都市(まち)』 ～みんなが輝く持続可能なまちづくり～

案3 『人と自然と産業が共生する魅力あふれる都市(まち)』 ～住みたくなるまちを目指して～

※ 多極ネットワーク型コンパクトシティ：各地区の中心部を地域拠点として都市機能の集積とまちなか居住を進め、公共交通等で結ぶまちづくり。

調和：うまくつり合い、全体がととのっていること。いくつかのものが矛盾なく互いにほどよいこと。

共生：ともに所を同じくして生活すること。二つ以上のものがいっしょに存在すること。

2. まちづくりの理念と将来像

(2) まちづくりの目標

これからのまちづくりの方向性(案)

(1) まちづくり全般

- 人口減少、少子・高齢化を見据えたまちづくり
- 持続可能なまちづくり
- “ものづくりのまち燕”としてのまちづくり

(2) 市街地の土地利用(用途地域内)

“ものづくりのまち燕”の加速、まちなかの魅力向上

(3) 市街地周辺の土地利用(用途地域以外)

農地・田園環境の保全と開発のバランス

(4) 交通体系

持続可能な公共交通網、次世代サービスの検討

(5) 環境・景観

脱炭素型まちづくり、自然や景観資源の保全

(6) 都市施設

人口減少に対応した持続可能な管理、拠点形成

(7) 都市防災・防犯

防災まちづくりの推進、防災・防犯体制の強化

(8) 観光・文化・スポーツ・レクリエーション

地域資源を活用した観光振興

現計画の理念

1. 基本理念(現行)

- ・総合計画(当初)の理念『育成:人を育てる 参画:人を活かす 交流:人がふれあう 協力:人が助け合う』に『地域資源:自然(川・田園・山の原風景)、産業(地場産業)』を加えた現計画を踏襲するとともに、策定委員会で意見のあった『夢』のキーワードを加え、県の都市づくりの目標である『コンパクトな都市』を踏まえたもの。

2. 将来像(現行)

『人と自然と産業が、調和した夢のある都市(まち)』
～コンパクト都市の実現～

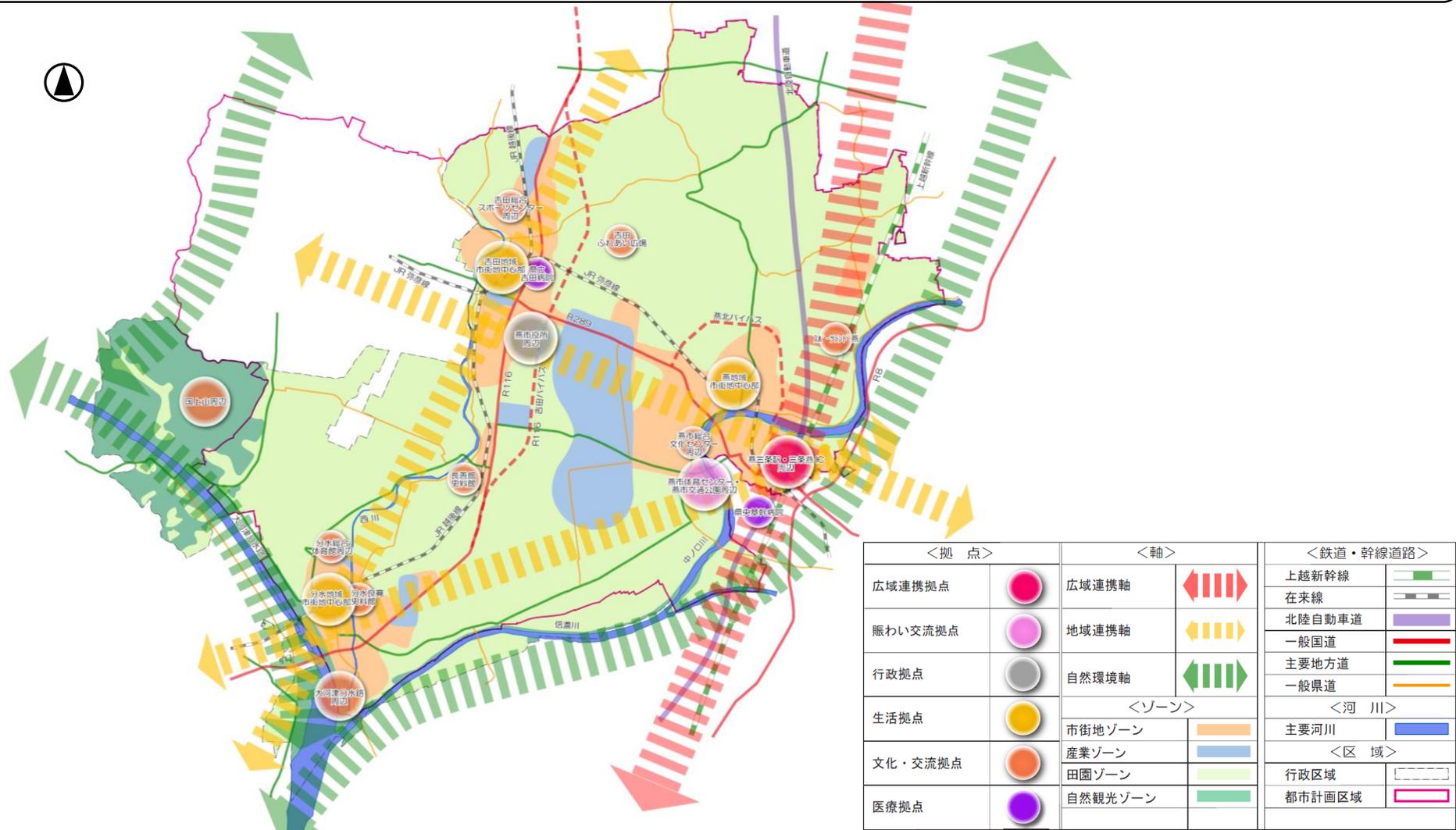
まちづくりの目標(案)

1. ものづくり産業の飛躍とまちなかの魅力向上で賑わいがあふれるまち
2. 拠点の機能強化と地域資源の活用で多くの交流を創るまち
3. 多様な拠点を公共交通サービスで結ぶ移動しやすく暮らしやすいまち
4. 高まる自然災害リスクから暮らしを守る安全・安心なまち
5. 自然環境・田園風景の調和と脱炭素社会を実現するまち

2. まちづくりの理念と将来像

(3) 将来都市構造

○燕市の目指す将来の骨格的な都市構造を6種類の「拠点」、4種類の「ゾーン」、3種類の「軸」で示します。



2. まちづくりの理念と将来像

(3) 将来都市構造

【都市構造の核となる“6つの拠点”】

● 広域連携拠点

- ▶ 広域交通の結節点として交通利便性の高いJR燕三条駅周辺を広域連携拠点として位置づけます。
- ▶ 各種都市機能を集積し、多様な来訪者が集い賑わう市の玄関口としてふさわしい商業やビジネスの拠点として、高密度な土地利用や都市施設の充実に努めます。

● 賑わい交流拠点(新たな拠点)

- ▶ 産業史料館や体育センター、交通公園、こどもの森等の文化・交流施設が集積し、さらに子育て関連施設の建設が計画されていることから、その周辺地区を賑わい交流拠点として位置づけます。
- ▶ 公共施設が集積した多様な人々が集う交流拠点として、また、県央基幹病院開院後の人流の変化を想定した拠点形成を図ります。

● 行政拠点

- ▶ 庁舎周辺を行政拠点として位置づけます。
- ▶ 行政機能及び必要最低限の生活利便施設が集積し、利便性が高く市民に親しまれる新たな都市核として拠点形成を図ります。

● 生活拠点

- ▶ 燕地域、吉田地域、分水地域の市街地中心部及びその周辺を生活拠点として位置づけます。
- ▶ これまでの生活基盤や地域固有の歴史・文化も活かしつつ、都市機能の適正な見直しをふまえた新たな働き方・住まい方に対応した拠点形成を図ります。

● 文化・交流拠点

- ▶ 市内に点在する歴史文化・芸術施設周辺や、大規模な公園・緑地などを文化・交流拠点として位置づけます。
- ▶ 市民の文化活動のための施設の充実や、やすらぎや憩いの場の環境整備を図るなど、各施設の特徴を活かした拠点形成を図ります。

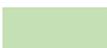
● 医療拠点

- ▶ 地域の医療を支える県立吉田病院と、令和5年度に開院予定で県央地域全体の救急医療を担う県央基幹病院を新たに医療拠点に位置づけます。
- ▶ 県央圏域の医療再編をふまえつつ、救命救急医療や高度・専門的医療の提供、通院や救急搬送の円滑化など、充実した地域医療を支援する拠点形成を図ります。

2. まちづくりの理念と将来像

(3) 将来都市構造

【都市構造の骨格となる“4つのゾーン”】

- 
市街地ゾーン … 人口減少、既存市街地内の空き家・空地の状況を勘案するとともに、都市機能の集約による持続可能な都市の実現を図る地域。
- 
産業ゾーン … 基幹産業である市の工業用地が集積する地域。国内外からの関心の高まりによる需要拡大に応じた基盤整備を図る地域。
- 
田園ゾーン … 市街地周辺に広がる既存集落地及び豊かな田園を有する地域。田園に囲まれたゆとりある居住環境により自然との共生を図る地域。
- 
自然観光ゾーン … 自然環境や景観の保全を図るとともに、周辺の豊かな自然や歴史、文化資源を活かした市民や観光客の憩い、自然体験のための空間及び観光資源として利活用を図る地域。

【都市構造の骨格となる“3つの軸”】

- 
広域連携軸 … 通勤通学など日常生活や経済活動、観光産業、救急医療搬送を支える軸
- 
地域連携軸 … 近隣市町村との連携を支える軸であるとともに、各拠点を有機的に連携する軸
- 
自然環境軸 … 国上山、信濃川、大河津分水路、中ノロ川による市の原風景として、また、自然環境の骨格となる軸

3. まちづくりの目標と主要課題

将来像実現のための主要課題

○将来像を実現するための主要課題を目標ごとに検討

目標

1. ものづくり産業の飛躍とまちなかの魅力向上で賑わいがあふれるまち
2. 拠点の機能強化と地域資源の活用で多くの交流を創るまち
3. 多様な拠点を公共交通サービスで結ぶ移動しやすく暮らしやすいまち
4. 高まる自然災害リスクから暮らしを守る安全・安心なまち
5. 自然環境・田園風景の調和と脱炭素社会を実現するまち

現況

・前回の会議で検討した現況

将来像実現のための主要課題

・現況と比較して、将来像を実現するための不足点などを整理

3. まちづくりの目標と主要課題

将来像実現のための主要課題

1. ものづくり産業の飛躍とまちなかの魅力向上で賑わいがあふれるまち

- ・ものづくりの伝統と確かな技術力を備えた燕市のものづくり産業のさらなる発展のため、産業基盤の維持や拠点への集約等により、活発な産業活動を促進し、競争力の向上を目指します。
- ・中心市街地への緩やかな都市機能の集積とまちなか居住の誘導を進めるとともに、燕地区・吉田地区・分水地区の拠点を結ぶ公共交通の維持・強化を図り、利便性が高く、暮らしやすい持続可能なまちを目指します。

現況

- ・燕市が有する高い金属加工技術等に国内外から関心が高まっています。
燕市の産業の高付加価値化を図ることのできる企業・人材を誘致し、競争力強化を図る取り組みを実施しています。
- ・人口減少、核家族化の進展に伴い、中心市街地では、空き家や空き地の増加による街の空洞化、衰退が懸念されています。
- ・昭和50年代に施設の建設が集中し、公共施設の老朽化が進んでいます。

将来像実現のための主要課題

- ・活発な産業活動の促進と、ものづくりの競争力を強化するため、分散する工場・倉庫・事務所等の集約が求められており、需要に応じた新たな生産物流拠点の整備が必要です。
- ・働き盛り世代の移住・定住を促進するため、暮らしやすい・働きやすい市街地形成により、まちなかの魅力向上を図る必要があります。
- ・人口減少に対応した都市機能の維持・保有を検討し、拠点への緩やかな都市機能の集積とまちなか居住の誘導、適切な土地利用の検討が必要です。
- ・拠点性を高めるために、都市機能が集積した拠点を結ぶ公共交通機関の整備が必要です。

3. まちづくりの目標と主要課題

将来像実現のための主要課題

2. 拠点の機能強化と地域資源の活用で多くの交流を創るまち

- ・ 広域連携拠点や賑わい交流拠点、文化・交流拠点などの拠点機能を強化することで、新たな魅力を創出するとともに、燕市が有する自然景観や、ものづくりのまちとしての歴史・文化など、近年注目を浴びる産業観光等の地域資源を含む、燕市の特性を活かした交流が盛んなまちを目指します。

現況

- ・ 人口減少対策として子育て環境の充実や交流人口の拡大が重要であり、多様化する住民ニーズに対応した新たな拠点形成を体育センター・交通公園周辺の地区で検討しています。
また、当該地域周辺は県央基幹病院開院による人流の変化が予想されます。
- ・ 自然景観や歴史文化、オープンファクトリー等の産業観光、スポーツイベント等、多様な観光資源を有しており、注目度が増す国上山周辺エリアでは道の駅の拡充計画が進んでいます。
- ・ スポーツ・レクリエーション施設の老朽化が進んでおり、大規模改修や長寿命化対策が必要です。

将来像実現のための主要課題

- ・ 交流・応援(燕)人口の拡大に向け市民や来訪者が、居心地が良く訪れたい都市を形成するため、広域交流の促進や、人流増加を見越したインフラ等の整備を検討する必要があります。また、ものづくりのプラットホームや観光の拠点となる整備が必要です。
- ・ 国上山周辺の道の駅の拡充や注目を浴び高い集客につながっている産業観光など、特徴のある地域資源を活かした、魅力向上を図る取り組みが必要です。
- ・ 健康づくりや交流の場として快適に過ごせるように公園施設の整備・管理を推進する必要があります。また、市内に点在するスポーツ・レクリエーション施設の維持管理を計画的に進めるとともに、利便性や活用の向上を図る必要があります。

3. まちづくりの目標と主要課題

将来像実現のための主要課題

3. 多様な拠点を公共交通サービスで結ぶ移動しやすく暮らしやすいまち

- ・都市の基幹施設や広域施設、商業地・娯楽施設・働く場などの多様な拠点が、幹線道路や次世代の公共交通サービスにより効率的・効果的に結ばれた移動しやすい快適なまちを目指します。

現況

- ・長年にわたる燕・三条地域の市街地を中心とした交通渋滞は、市民生活や産業活動に支障をきたしています。
- ・人口減少に伴い公共交通利用者が減少傾向にある中、高齢者や若年層等の車を運転しない方の交通手段の確保が求められています。
- ・公共交通の維持は全国的に進展している問題であり、これらの解決において関係機関等が連携・協働しながらICT, IoTの活用など多様な取り組みがスタートしています。

将来像実現のための主要課題

- ・幹線道路の整備促進により市街地の渋滞解消や産業・観光拠点の連携を強化することで、人流・物流の活性化を図る必要があります。
- ・安全・安心で快適に移動可能な歩行空間を形成し、高齢者の外出機会の増加や市民の健康づくり等を促進する必要があります。
- ・自家用車での移動が困難な高齢者や若年層の移動手段を持続的に確保・持続するため、公共交通の利便性向上と利用促進のための取り組みが必要です。

3. まちづくりの目標と主要課題

将来像実現のための主要課題

4. 高まる自然災害リスクから暮らしを守る安全・安心なまち

- ・激甚化・頻発化する災害への対応として、ハード対策やソフト対策により、災害リスクを低減させることで安全性を高め、安心できるまちを目指します。

現況

- ・ハザードマップでは、想定しうる最大規模の降雨（1000年に1度程度の確率）により河川が氾濫した際の浸水想定では市内のほぼ全域が浸水区域となっています。
- ・大河津分水路の大規模改修工事が実施されており、完成することで、洪水リスクの低減が期待されています。
- ・分水地区の一部に注意が必要な土砂災害特別警戒区域及び家屋倒壊等氾濫想定区域があります。
- ・市街地に消防活動や避難等が困難な要因となる狭隘道路・行き止まり等があります。

将来像実現のための主要課題

- ・河川整備等と防災まちづくりの総合的・重層的な取り組みにより、防災・減災が主流となる災害に強いまちづくりを目指す必要があります。
市街地における集中豪雨等による浸水被害の対策が必要です。
- ・水害や土砂災害等、災害の発生するおそれのある地域について被害の防止・軽減が必要です。
- ・避難路の整備や緊急車両が侵入できない狭隘道路の拡幅、道路・公園等のオープンスペースの確保や建物の耐震化・不燃化の誘導等、災害に強い都市基盤整備が必要です。

3. まちづくりの目標と主要課題

将来像実現のための主要課題

5. 自然環境・田園風景の調和と脱炭素社会を実現するまち

- ・自然環境の保全を図るとともに、国定公園の国上山や信濃川・大河津分水路などの景観資源の保全と良好な景観形成により、自然との共生、環境との調和のとれたまちを目指します。
- ・脱炭素社会の実現に向けた取り組みの推進や、土地利用の誘導対策の推進により、環境負荷の小さいコンパクトな都市構造のまちを目指します。

現況

- ・用途地域外で既に都市的土地利用の集積が見られる地域があります。
- ・耕作放棄地が増加傾向にあります。また、後継者不足から農地等の荒廃が更に進むことが予想されます。
- ・地球環境問題の深刻化により環境意識が高まり、全国の自治体で持続可能で包括的・多様性のある社会の実現のための取組が進んでいます。
- ・地域活動を支える担い手の不足が進展しています。

将来像実現のための主要課題

- ・市街地と豊かな自然環境の共生による優れた居住空間を形成するため、国上山や大河津分水路、中ノ口川等の河川や農地などの優れた自然景観の保全と都市機能の計画的な配置が必要です。
- ・農地の荒廃を抑制するため、環境の整った農地等、優先的に保全すべき農地を整理し、集中的に支援することが必要です。同時に、都市的土地利用の需要拡大等に対し、土地利用の転換についての検討が必要です。
- ・再生可能エネルギーの活用などによる脱炭素に向けた取り組み等を推進するとともに、環境負荷低減を図る必要があります。
- ・地域コミュニティによる景観づくり等、地域の愛着や誇りを醸成する取り組みが必要です。